第6学年○組　国語科学習指導案

令和３年○月○日（○）第○校時

児童数　○○名

指導者　○○　○○

**１　単元名・教材名**　　表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう

　　　　　　　　　　　「『鳥獣戯画』を読む」

　　　　　　　　　　　「調べた情報の用い方」

　　　　　　　　　　　「日本文化を発信しよう」

**２　児童の実態と本単元の意図**

1. **児童の実態**

　「書くこと」において、児童は第２学年で「はじめ」「中」「おわり」を考えて書くことを学習し、第３学年では、「段落」を学んだ。第５学年の、「グラフや表を用いて書こう」では、引用したり、図表やグラフなどを用いたりしてより自分の考えをわかりやすく伝える書き方を学んだ。また、文章全体の構成や展開では、第５学年で「頭括型」「尾括型」「双括型」があることを学び、それぞれの構成の良さを吟味した。第６学年では「笑うから楽しい」「時計の時間と心の時間」で筆者の主張と、それを支える事例を捉え、自分の主張をよりよく相手に伝える書き方を学び、筆者の主張に対する自分の意見を書く学習を行った。ほぼすべての児童が「はじめ」「中」「おわり」で書くことのよさを理解したり、自分の主張が一番伝わりやすい構成は何かなどを自分なりに選択して書こうとしたりしている。しかし、実際書いてみるとその通り書けていなかったり、始めと終わりがちぐはぐになったりしてしまう児童がいる。また、調べたことを伝えたいと思うあまり、一文が長くなり分かりにくい文章になってしまう児童もいる。今後は、人をひきつける文章を書けるようにしていきたい。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| ５月実施　学び伸びるかねこ  アンケート結果 | とてもそう思う（いつもする） | ややそう思う  （大体する） | あまりそう思わない（あまりしない） | そう思わない（全くしない） |
| 勉強は楽しいですか。 | 12.5% | 65.6% | 12.5% | 9.4% |
| 家庭学習に毎日しっかり取り組んでいますか。 | 34.4% | 34.4% | 31.3% | 0.0% |
| 国語はよくわかりますか。 | 37.5% | 53.1% | 6.3% | 3.1% |
| 国語で自分の考えをしっかりと書いていますか。 | 34.4% | 43.8% | 21.9% | 0.0% |

1. **教材観**

　　本単元は「『鳥獣戯画』を読む」の表現の工夫をとらえて読み、そこで学んだ表現の工夫を活用し、学校図書館等を利用して調べたことを書く複合単元である。自分の表現にいかすという目的に応じて、『鳥獣戯画』という日本文化にかかわる筆者のものの見方・考え方、表現の工夫を捉えて読む教材である。このことで、本を読む目的を明確にもつこと、他者の書いた文章と自分がこれから書く文章とのつながりを考えること、この学習プロセスを通じて、文章の読み書きにかかわる深い認識を獲得し、絵や写真などを用いた文章表現の一つ一つについて深く考える学習を実現するのに適した教材である。

　　「『鳥獣戯画』を読む」は、９つの段落で構成されている。「おわり」にあたる第９段落にのみ筆者の主張が書かれている尾括型の文章であるともいえる。また、第１～４段落を「初め」として「漫画だけでなく、アニメの祖でもあるのだ。」と主張に近いことが書かれていることから総括型の文章ともいえる。いずれにせよ、典型的な説明文の文章構成をとっているとは言い難いが、だからこそ筆者の伝えたいことが強く伝わってくる文章である。

　 指導にあたっては、小学校学習指導要領の第５学年及び第６学年の「B書くこと」の指導事項「イ　筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること」を重点的に指導するものである。

1. **指導観**

日常的に読書に親しみ、読書が自分の世界を広げることに役立つように気付かせるために、日本文

化に関連する図書やパンフレット等を身近に置いておく。

学校研究との関わり

1. 児童が考え活躍する授業に向けて

　①自分の学びに見通しをもたせ、主体的に取り組ませるために、学習計画表を作成する。自力で

　　課題に取り組む時間を設定し、ノート等に各自の考えを書かせる。

　②学習計画表に振り返りを書きためることで、自分の変容を実感できるようにする。

　③読み取りではサイドラインを引かせるなど目的意識をもって読ませる。

　④主体的に学習に臨めるように、日本文化に関連する図書やパンフレット等を教室内に準備し

　　て環境を整え、必要感をもって学習に臨めるようにする。

　⑤ペア学習やグループ交流を目的に応じ適切に設定し、対話によって自分の意見を広げたり深

　　めたりする場面を設ける。（金子の学び合いの活用）

　⑥全体交流中も教師対特定児童とのやりとりとならないよう、適宜ペア学習等を取り入れ全体

　　を対話にまきこんでいく。

　⑦学びを深めるために、ペア学習やグループ交流の後には必ず全体交流で練り上げる場面を取

　　り入れる。また、学びの深まりを作り出すために、全体交流の際には理由を言わせたり、教師

　　の切り返しにより大切なことに気付かせる。

　⑧単元の導入時に『鳥獣戯画』の一場面を解説する文章を書いてみる。そのことで絵のどの部分

　　に着目し、そのような言葉で表現したらよいのか悩み、より言葉に自覚的になって「『鳥獣戯

　　画』を読む」の読み取りに入れるようにする。

（２）丁寧でわかりやすい授業に向けて（ユニバ－サルデザイン化）

①端的な言葉で発問・指示する。

②発問はねらい達成に向け精選し、焦点化する。

③本時のめあてや学習の流れがわかりやすい板書を行う。

　④資料や本文の拡大図を提示し、視覚化を図る。

　⑤グループ交流の際使うとよい言葉等を事前指導したり、教室内掲示をしたりすることで児童の助けとなるようにする。

　⑥一部の児童とのやりとりにならないよう、全体への問いかけに努める。

３　単元の目標

（１）日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができる。（〔知識及び技能〕（３）オ）

（２）思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（〔知識及び技能〕（１）オ）

（３）筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。（〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)イ）

（４）引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（〔思考力、判断力、表現力等〕B（１）エ）

（５）目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。（〔思考、判断、表現等〕C（１）ウ）

（６）言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとしている。（〔学びに向かう力、人間性等〕）

４　単元で取り上げる言語活動

・学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して日本の文化について調べた情報を知らせる

パンフレットを作る。（関連：言語活動例　ウ）

５　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ①日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。（（３）オ）  ・思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。 | ①「書くこと」において、筋道の通った文となるように、文章全体の構成や展開を考えている。（B(1)イ）  ②「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（B(1)エ）  ③「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。（C(1)ウ） | ①粘り強く文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取ったり、構成を工夫して書き表したりすることに取り組み、学習の見通しをもってパンフレットを作ろうとしている。 |

６　指導と評価の計画（全１１時間　本時４/11）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時 | 主な学習活動 | 学習内容 | 〇指導上の留意点・【】評価 |
| １ | 〇「『鳥獣戯画』を読む」の表現の工夫をいかして、日本文化について調べて分かったことを書きまとめる学習の見通しをもつ。  〇論の展開のよさについて考え  る。 | ・絵の読み取り方  ・学習計画の立て  筆者の書き方の工夫をとらえ、それをいかして日本の文化について発信しよう  　方  ・段落構成  ・段落ごとの大体の内容 | 〇「鳥獣戯画」の一場面（教科書ｐ１４３）を取り上げて、その絵を解説する文章を書かせることで、絵のどこに着目するのか、どんな言葉で表現したらよいのか等と課題意識を持たせ、主体的にこれからの学習に臨めるようにする。  【態】観察・記述  『鳥獣戯画』について関心をもち、学習の見通しをもって日本文化を発信する学習に取り組もうとしている。 |
| ２  ３  ５  ６ | 〇絵と文章を照らし合わせながら、筆者が『鳥獣戯画』をどう読んでいるかを明らかにする。  〇筆者の「絵についての評価」と「絵巻物についての評価」を読み取る。  〇筆者の伝えたいことを捉え、「論の展開」「文末表現の工夫」「絵の示し方の工夫」などの効果について考える。  〇「調べた情報の用い方」を読み、著作権への理解を深める。  〇学校図書館などで、日本文化についての本を探し、表現の工夫に着目して読む。  ※２～６時の間の並行読書とする。 | ・筆者の評価の読み取り方  ・魅力を効果的に伝えるための表現の工夫  ・必要な情報の見つけ方  ・調べた情報の用い方 | 〇筆者が絵のどの部分を取り上げ、何に着目しているか、本文に線を引かせるなどして読み取らせる。  【知】観察・記述  読書に親しみ、読書によって、ものの見方や考え方を広げられることに気付いている。  〇「絵」と「絵巻物」に対する評価が分かる叙述に、別々の色を使って線を引かせて視覚的に捉えられるようにする。  〇表現の工夫や効果を見つけ、観点をグループ分けをする。  【思考・判断・表現C】発言・記述  目的に応じで、筆者の伝えたいことと、絵などの資料の使い方や表現の工夫、論の進め方とのかかわりを捉えている。  【思考・判断・表現C】発言・記述  文章と図表などを結び付けて必要な情報を見つけている。  【態】観察・記述  文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取ることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって複数の本を選んで読もうとしている。 |
| ７  ８  ９  10 | 〇各自で発信する日本文化を決め、パンフレット作りの構想を練る。  〇必要に応じて詳しく調べる。  〇パンフレットの紙面構成や筋道などの構想を決め、割り付けをする。  〇今までの学習を生かし、表現の  　工夫を考えて下書きを書く。  〇パンフレットを完成させる。 | ・パンフレットの内容の決め方  ・情報の調べ方  ・引用の仕方  ・絵や写真の活用の仕方  ・割り付けの仕方  ・魅力が伝わるような構成の工夫  ・魅力が伝わるような表現の工夫  ・推敲の仕方 | 〇これまでに読んだ本の中から各自  テーマを選ばせる。  【思考・判断・表現B】記述  伝えたいことを明確にし、効果的に伝わるよう、紙面構成を考え、文章全体の筋道を整えている。  【思考・判断・表現B】 記述  引用したり、絵や写真などと文章との組み合わせを考えたりして、伝えたいことが伝わるように書き表し方を工夫している。  【態】観察・記述  日本文化に興味をもち、構成や表現を工夫して書き表すことに粘り強く取り組み、学習の見通しをもってパンフレットを作ろうとしている。 |
| 11 | 〇それぞれのパンフレットに対する感想を伝え合い、単元の振り返りを書く。 | ・共有の仕方  ・パンフレットの良さの見つけ方 | 〇感想を伝え合う際には「たいせつ、いかそう」と関連づけてまとめる。  【態】発言・記述  学習を振り返り、これから日本文化にかかわる本を読んだり、絵や写真などを用いた文章を書いたりするときにいかしていこうとしている。 |

７　本時の学習指導（４/１１時間）

1. 目標

　〇目的に応じて考えを効果的に伝えるための表現や構成の工夫について捉えることができる。（〔思　考力、判断力、表現力等〕C（１）ウ）

1. 評価規準

〇目的に応じて、筆者の伝えたいことと、絵などの資料の使い方や表現の工夫、論の進め方との関わりを捉えている。【思考力、判断力、表現力等】

（３）展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習活動 | 学習内容 | ・指導上の留意点・評価 |
| １　ふりかえり（１分）  〇前時までの学習を振り返り、単元のゴールを確認する。 |  | ・掲示物を活用し、端的に振り返り、全員の意識をパンフレット作りに向かわせる。 |
| ２　課題提示（3分）  〇本時のめあてを確認する。  ３　自力解決（１０分）  〇筆者の工夫について、気が付いたことをノートに書く。  　◎表現の工夫について  　　・体言止めのよさ（共通）  　◎論の展開の工夫  　◎その他  ４　グループ交流（6分）  〇筆者の工夫について考えたこ  　をグループで交流し、多様な  　考えに触れる。  ５　全体交流（1７分）  〇全体で、各グループから出さ  　れた工夫をもとに、その工夫  の良さについて検討する。 | ・魅力を効果的に伝える工夫  めあて：作品のみりょくを読者に伝えるための工夫を考えよう  **表現の工夫**  ・体言止め  ・文末表現  ・言葉の選び方  **論の展開**  ・尾括型の構成  ・例として漫画やアニメを用いる。  **その他の工夫**  ・絵の示し方  （１つの絵を分割）  ・筆者の工夫についての観点  ・グループ交流のしかた  ・読者にわかりや  すく伝える工夫  ・工夫の効果  〈予想される例〉   1. 表現の工夫…文末表現の効果 2. 論の展開の工夫…尾括型の構成 3. その他…絵を分けて示す | ・教師から、工夫を見つける際の観点（表現の工夫、論の展開、その他）を提示する。  ・体言止めについては、教師から例示として示し、その良さについて考えさせる。  ・見つけた表現を見失わないよう本文に工夫を見つけた場合は教科書に線を引きながら見つけさせる。  ・ノートに書く際に、その理由も書かせる。  ・司会者・記録者の役割を明確にしてから話合わせる。  ・友達の考えを聞いた後に一言コメントを言わせる。  ・話し合った結果を各クループ１つ短冊に書かせて黒板に貼らせる。  ・貼り付けは教師が補助し、短時間で行う。  ・全てを扱うのではなく、今後のパンフレット作りに活かせそうな２つ（①、②）の工夫の効果についてクローズアップしてその効果を考えさせる。  ・一部の児童の発表で価値づけず、適宜ペアや３人グループで話し合わせ、全体をまきこんでいく。  ・①、②について児童から出ない場合は、教師から提示する。  〈評価基準〉  【思考・判断・表現】  〈評価方法〉  ノートの考察・発言  ・本文の書きぶりから、作品の魅力が伝わる工夫とその理由を見つけ、ノートに書けた児童をB評価とする。  〈努力を要する状況Cへの手立て〉  ・本文を読ませ、「面白いな」と思った部分に線を引くよう助言する。  ・「鳥獣戯画」の魅力を考えさせ、それが書いてある部分を見つけるよう助言する。 |
| ６　まとめ（５分）  〇作品の魅力を伝える工夫を自分の言葉でノートに書く。  ○ノートに書いた工夫を共有す  　る。  ７　ふりかえり（３分）  〇今日の授業で学んだことと、考えたことを学習計画表に書く。  〈期待される振り返り〉  ・作品のみりょくを伝えるには、文の書き出しや文末を工夫すればよいと分かりました。自分のパンフレットを作る時も、体言止めの文で、読む人をひきつけたいです。  〇２名程度の友達の振り返りを聞く。 | ・学習のまとめの書き方  〈十分満足な記入例〉  作品のみりょくを伝えるには…・作品の様子やそれに対する自分の評価を繰り返し、作品の  持つ価値を解説するような論の展開にする。  ・書き出しや文末の表現を工夫し、リズム感のある書き方に  する。  ・つながっている絵をわざと分けたりして、資料を効果的に  示す。 | ・どのように書けば作品の魅力が伝わるか、授業を通して学んだことを振り返らせる。  ・意図的指名により次時以降につながる振り返りを共有する。 |

（４）板書計画

よさ

体言止め

よさ

リズム感

作品のみりょくを読者に伝えるための工夫を考えよう

表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう

『鳥獣戯画』を読む　高畑　勲

わくわく

表現の工夫

その他の工夫

論の展開の工夫

ふりかえり

まとめ

作品のみりょくを伝える工夫は

めあて